

歌合

嘉吉三年二月十日(前攝政家歌合)

六

拜會

作者

女房

前攝政

右近衛中將教房新

入道正二位為盛新

右衛門督雅永新

中納言房

沙弥常秀 細川河津寺入道

侍從藤原為秀朝臣

入宣三福寺淨土宗

前和泉守藤原経清

教位源持房 大德寺別當

教位和氣成成朝臣

權大納言次實廣新

兵衛房

大僧都良海 證具和信

左近中將藤原持和朝臣

法印 光孝

小宰相房

正徹

教位源持純 善山前右馬頭

權大僧都宗成 西光院

從三位仲方卿

權大僧都實政



哥合

作者

女房

前横政

後成忍寺

右近衛中將教房卿

兼良

入道正二位為盛卿

右衛門督雅永卿

中納言房

沙弥常秀 細川阿波守入道

侍從藤原為秀朝臣

入室 三福寺淨土宗

前和泉守藤原經清

散位源持房 大館治部大輔

散位和氣茂成朝臣



權大納言次實廣卿

兵衛房

大僧都良海

證真如院

左近中將藤原持和朝臣

乃廣

法印 堯孝

小宰相房

正徹

散位源持純

畠山前右馬頭

權少僧都宗我

西光院

從三位仲方卿

權大僧都實政

大藏卿祝部成前宿祢  
施藥院使丹波盛長朝臣  
右大史小槻時繁

前下總守平氏數  
前伊豫守藤原定衡  
左近府生泰兼任

講師

五郎

判者

衆議

右大史小槻時繁  
左大史小槻時繁  
右大史小槻時繁  
左大史小槻時繁  
右大史小槻時繁  
左大史小槻時繁

右大史小槻時繁  
左大史小槻時繁  
右大史小槻時繁  
左大史小槻時繁  
右大史小槻時繁  
左大史小槻時繁

一番 初春

左

女房

春風うき山系山初りれそ先ある魚のむしうとわいそ持くはる

右

権大納言資廣卿

去るぬきれはるぬれきうなをむしほはきひく乃志草

屋まとうとあ免つらひききし神代よりわの國の

けいひんれ志わさなりきまぬはまき成大れみ

りてあそくは名成くらせぬ世母のうしあれをまひ

とつさりしころはなまけ志しぬんやいそ家かそ

まゆれはちの美乃志母ねふんやこ母は百葉集

をえりしれと勅撰しき先をうれあしり

代り乃んゆいれを履らまみあまら給ぬれ



とこれららまほしくしと志のえんを  
亭子代はひしつら乃はういをむを  
りし村よれ少時おからまけ乃志を成志家  
りれより志れし永兼兼信磨磨られ内裏乃こあ  
りせなりいみわさく乃家く母つらまを  
時おのとも事一おあましくつらあつこまあ  
せ志しにいくそくそやある時あつこのおま  
れあや免なりくろくに袖をひきけあ家  
時と吹と乃こま志しくあつにあつ記志家  
かとせり国の中れ妻のあつ記おまを  
乃成代あつこい前載は妹乃花は海くの  
一巻の海成ほくを採むくこれまこおあ  
城とこハれやまひとる成しとまあまの

それおむむをなりきれいとあつい  
あをあつせふあなるしとあついおまの  
りしれちりをほきて救世おをよひ和歌は  
浦の人なみおらましとてに記ちれまひ  
おまにわらまを去れ花のさくしとわされ妹  
れまこおらうくあやしれいとりのおされ  
ありきるひくよりのほつらの志おむいまゆ  
あ乃ほく志おうおまきれはなあつこんれい  
はみ君れしとあつこいおまの志おあひ  
あつららんこんやうこ合つらつら海ゆふ  
かさなりあつあつあつといつとあまれあ  
かつまらつ記世おとつわあおまあつや  
あつらつて物おまの志れあつ田くま

かこつていゝらんこれとて家半城あり  
そむく世らんあやめく後れあさきあり  
をかつりみうなる一筆いろさめをよ  
幸はいれいあうよ市人をえうりおの教とこい  
これとてれく女首城よりおれをちめ  
さきめつせん事をこい祿一とさめふきふ  
うし先くまあふのいゝものそいおれ  
あみあしうらる半と志一りむたれ  
いふ女ぬのあま記さしとくもたさ城い  
りなぢあをほりい乃よあをわち志  
はれいつちのからまけと志こむあ半い  
へ乃志をさかめわさめいふあをさめい  
かこつていゝ後一後色いおれをちかこつてあさ

おつてゆれとこむ一のかみちりれ世のあめ  
おのけとさめこのらんれさうなまいあめ  
いささく又さしをくへ妻あははおよをいり  
の判をもちわたり衆れ漢代もあめ半と  
我志ぬあし人志あ人のいさうあ半も我ふ  
かれこれとをさうりしてやめさうあをほく  
うんとたをわきさうとく網子つげんはま  
いさうこれさういゝされいさういゝ  
もちんとまをさうんやあさ乃いけりりあ  
あぬ半ちうれさうをちさういゝむ半な  
さいいうめいんやあれ座あさういゝ  
かみあ家のらさくひ妻ああういゝぬい  
あといひ同類といひる一筆さう一筆

中巻の雲乃あやうさなく侍家いそをわし  
あわさあししとあしくもつひうせあもさうもハ  
尺れおわぬぬひく半一の子をある一ををいし  
不更かああの前せん半一はけかおれせあ乃  
うかりおおく侍れととあもるんあもれは  
かれいさう川いさうあもせうあの侍を  
ときあよなんありきあ たおれ前海碩の  
のちあれく難瓜あうあうさう一侍い  
人く一回あされ侍一たあむもさう  
といとさうくと侍家おあれよりこああ  
あうさうさう侍をおれ侍又さうこあ  
さういさあおれむさひ松もあさうあ  
とさうあれ侍いさうハあをさひあふさ

二番

た

た道衛中将教房卿

あういんとてた乃勝り侍さあらも侍

あう乃浪をさうさうああもさうあさうあ

右

道清房

さうさうああはさうさうあ山とあさみさあやう  
た侍さあもさうさうさうさうさうさうさう  
いさあれといああさうさうはあさあさうさう  
侍りあれ山とああさあさうさうさうさうさう  
さうさう侍りさうさう一回あさうさうさうさう  
さうさう侍りさう

三番

た

入道正二位為盛卿

あうさうあうさうあうさうあうさうあうさう

あまのたつとみはたはるくそとくまよりの見とくはるの那

三右 大信都良河

り海人た梅えうとよた若うと清城そつ家玉乃ういひを  
たは續指遺集は巻以高家卿の壽よりあまの  
くしは一書はるそそめくまよりのまよとまかを  
みうれと侍系めく二三字のまよいうりなをい  
めもま毫乃志とくそおひく侍系をと侍時客  
れあは海なるそとくなら家難をきうた同敷あま  
よるまよく勝とせり

四番

た

右連侍雅永卿

そこのうみとあやうまきゆくまをせうらぬお雲のちみその社を

右

た近來中納藤原持和朝臣

若うみふゆあめくはちをよるやはのりてかまむま城志あらん  
た右あ若たは源家純うちお家信やといふ壽は  
んはたよりい右の紀書之の婦りとれちとひちよりな  
まてくかきお序は似代いづりその母た今集  
よりいしてうり勝芳と論をふめいと海あつ似

五番

た

中納言房

まがらふ春は志あしとまよとよらかまみれひくえうと乃聖

右

は平亮孝

りちうとくくんゆあめれをむれくとま乃いづりあ家や那  
たとちる先うふまをうこめつしわくは右の侍  
ちうめはしつり侍とを

六番



た

沙弥常秀

さしやまかきむしとてまはさうあふしののそくあり

右

小宰相房

風ひみながたのたふひ電乃うらうまはまきとやうくいそは

た右たに指難可謂曰科

七番

た

侍従藤原為季朝臣

久がたうそのまはまきといふかをみのあうをまや

右

正徹

春はまはまきあうをうらかきみふををきいあま若うあ

右新ハ二首れあうはまきれはまきあはまき

歳れ衣とま乃うあといふまきとあまきと

あまきといふはまきあう衣まきとあまきと

たはえはまきあうあひあひのあうゆさはあまき

衣うらまきあうあまきあうあまきあうあまき

あまきあうあまきあうあまきあうあまき

あまきあうあまきあうあまきあうあまき

あまきあうあまきあうあまきあうあまき

あまきあうあまきあうあまきあうあまき

あまきあうあまきあうあまきあうあまき

あまきあうあまきあうあまきあうあまき

あまきあうあまきあうあまきあうあまき

あまきあうあまきあうあまきあうあまき

八番

た

入宣

去年もあうあまきあうあまきあうあまきあうあまき

右

教位源持純

山川やまをみたり乃あまの心をまことけりしをまをせりあ  
たそを結米一右前又くけりしと傳系しいおせはや  
傳へんとうこい中人くを傳へりしとて  
いしとうんとて持こころを傳へりし

九番

九

前和泉守後原經清

春うせりのみちをなす系尾川乃志うむいほりいよとらん

右

權少僧都宗我

いせれりみやまれしものをしん系乃うらまかきむなみ乃正  
たふのなめし一奇とや中つてく一系新田川系れ  
水のなまをいしきくしをれ時友のいろをたう系と傳系  
と撰集るとお入傳へれとあまの心人れはあ勝灰

十番

九

教位源持房

春乃系志のあやほくろふたのとかけり乃若乃むもあ

右

從三位仲房卿

まかきみしそとていしきあり雲とやのいほりなはのあん  
右れ新其志しそとていしきいあふ若く傳系は後馬院  
け津製堂のなまをとていしきいあふ若くおれし志ろ  
あああはれ山く傳らぬの約お似とあう一ヤも  
いしきあはれた志勝しせの志うれとけしそとて  
いしきあはれしそとていしきいあふ若くおれし志ろ  
あはれはれしそとていしきいあふ若くおれし志ろ

十一番

左

教位和氣茂成朝臣

家多みだひりふも若とこころあつりぢもはまきとくかき子とひん

右

大信朝実政

おく少くも清くともめてうくいともやふれりも乃もはまきん

左

左在れ弄れらる幸ゆたにいこころもきこふとよし

十二番

左

大藏卿祝部成前宿祿

や野山足程れく若かきめともありふさむも是れ明不の

右

前下総守平氏数

も成りてこす清くも花やんるあつりさくくをきくも乃もはまき

左

左は金満うもりし侍る右も初白よりくははらぬ持

十三番

左

施薬院使丹波盛長朝臣

あえはちれまひりもともや非代もかきみはれはあつりくらん

右

前伊豫守藤原定衡

と飲りおそみそめりあえうくは海川のくもとまき

左

左天地右萬國春也之所及已似無遠迎霞粉之所

教示不辨 浅深

十四番

左

左大史小槻時繁

年をまへてんちやいことあつり明くははきいすりもいかにみ

右

左近府守奉憲任

春さぬくももやなぐらんもはまきもはまきもはまき

左

左夜類年去く路在考思春来く聲共無解難可曰

綱

十五番 中春

左

左進衛中將

山さくくささきふしつふんやう跡乃を外をたつこの表れくさ

右

入宣

月よりまじりあまとうと記んやこ人の海さゆもや志願れ花その

たをきれおの志願れ花をいほももをそかろ記あま

さきりささるうと記れこいつあまをいほまいつうそや

さあしゆら又月よまら記もてはくあまいつえ侍系うる部

代書月をいいつあも美ましくさ記かして歌都ま

今と花記詮要とせるあいつれとな記念なる

かろりや侍くし

十六番

左

小宰相

くさ里れいふあし老記さきいさくわの袖あまあまあま

右

右衛將

のくがふし海記あうの表あまあまいけあまのちささ

左 奇願れんくさあはゆ右を勝

十七番

左

從三位 仲音卿

春いりまれのはら乃らさきなりていかり乃なまかあらん

右

入道 二位

あれより梅とさくさくたけえりはくくささあまあま

左 右を肩勝方一擧ぐ

十八番

左

左大臣

ゆりの穂やまのちまもふ若ればのふも名を伝ふ身にかさみ哉

右

経清

ゆりの穂やまのちまもふ若ればのふも名を伝ふ身にかさみ哉  
た奇の雲あしうに侍ましくのんゆさ百葉あまを  
んれ月れりちまこて屋こてそれ若あふくし侍り  
それまの海まればまある若く時帝をいへま侍りそ  
いしく是侍る右奇の玉葉まゆ海人れ春れあま  
まゆそえゆあます侍まをそにむれましくと侍りし  
屋らん下れまあといへ鯛かたり侍ましくかふ奇を  
そ日影くの中侍りし哉

十九番

左

時繁

若くゆさいれ申のちまもふ若ればのふも名を伝ふ身にかさみ哉

右

權少僧政家我

ふひ先の袖れかきみ乃はさかぬさうくちまこてまゆにれ  
た奇まひれ申のちまもふ兼曆二年の奇合あし  
野あまのちまもふのまらしくいになりしうさうらま  
てくちまもふまこていれなるまゆまおのい入まん霞れ  
まこて海いくな侍り屋らんそれくかきみまこ  
むく侍りし若くぬらまこてやとりりまかまひ  
侍らん右奇の雲をいれまゆまゆまゆまゆまゆまゆ  
くらそつてまあまゆのひてやまゆまゆまゆまゆまゆ  
まみおひまをまゆと袖まかきゆらとまゆまゆまゆまゆ  
まこてとりりのちまもふまゆまゆまゆまゆまゆまゆ  
まゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

廿番

た

法平亮考

青柳をわいのちうひくち海をまやうをうれさうみあひをいん

右

女房

きまふえをいれ山乃む先ら香と神乃とをいれ子そをや姫きまふん  
た源氏物語よりり如紫れ日女このまれ巾かさうと  
くまふをいれ山乃む先ら香と神乃とをいれ子そをや姫きまふん  
くまふをいれ山乃む先ら香と神乃とをいれ子そをや姫きまふん  
くまふをいれ山乃む先ら香と神乃とをいれ子そをや姫きまふん  
くまふをいれ山乃む先ら香と神乃とをいれ子そをや姫きまふん  
くまふをいれ山乃む先ら香と神乃とをいれ子そをや姫きまふん  
くまふをいれ山乃む先ら香と神乃とをいれ子そをや姫きまふん  
くまふをいれ山乃む先ら香と神乃とをいれ子そをや姫きまふん  
くまふをいれ山乃む先ら香と神乃とをいれ子そをや姫きまふん  
くまふをいれ山乃む先ら香と神乃とをいれ子そをや姫きまふん

か一番

た

持和朝臣

つげられさうしんいとおふゆらなうくをいれおれ  
はくいと判らも侍いさうさう身十日れおふなり  
くの時をあらまきれその日くをいれおれ  
まうりもあらうりて侍りいれ神れ納文うさうい  
なまうりもあらうりて侍りいれ神れ納文うさうい  
まうせつ神威とめて持りいれ志うさうれ侍りまふ  
まうせつ神威とめて持りいれ志うさうれ侍りまふ

右

近衛

つげられさうしんいとおふゆらなうくをいれおれ  
はくいと判らも侍いさうさう身十日れおふなり  
くの時をあらまきれその日くをいれおれ  
まうりもあらうりて侍りいれ神れ納文うさうい  
なまうりもあらうりて侍りいれ神れ納文うさうい  
まうせつ神威とめて持りいれ志うさうれ侍りまふ  
まうせつ神威とめて持りいれ志うさうれ侍りまふ  
つげられさうしんいとおふゆらなうくをいれおれ  
はくいと判らも侍いさうさう身十日れおふなり  
くの時をあらまきれその日くをいれおれ  
まうりもあらうりて侍りいれ神れ納文うさうい  
なまうりもあらうりて侍りいれ神れ納文うさうい  
まうせつ神威とめて持りいれ志うさうれ侍りまふ  
まうせつ神威とめて持りいれ志うさうれ侍りまふ  
つげられさうしんいとおふゆらなうくをいれおれ  
はくいと判らも侍いさうさう身十日れおふなり  
くの時をあらまきれその日くをいれおれ  
まうりもあらうりて侍りいれ神れ納文うさうい  
なまうりもあらうりて侍りいれ神れ納文うさうい  
まうせつ神威とめて持りいれ志うさうれ侍りまふ  
まうせつ神威とめて持りいれ志うさうれ侍りまふ

かきし侍方おい海に美く 勝月夜のさし玉飾系  
あうい世おし〜くお初え侍にかれ南殿志橋に  
えんもそ〜人〜くあ〜れ侍のまじいれんを〜  
か〜れえいんちよ〜さんれか〜お〜ら〜う〜  
海にま〜ら〜おほろまな〜ぬえ〜し〜いあり  
きぬ二月やとほ〜う〜ら〜い〜は〜も〜れ〜  
〜ま〜し〜く〜え〜侍を〜な〜て〜お〜ら〜う〜  
きんかれ人乃出〜い〜は〜み〜の〜か〜う〜  
侍系もれ〜れ〜右〜左〜雨〜ふ〜ら〜も〜あ〜れ〜  
〜て〜な〜ら〜く〜き〜ん〜つ〜ま〜く〜ら〜か〜う〜  
〜し〜お〜初〜侍を〜な〜て〜お〜ら〜う〜月夜れあ〜れ  
あ〜い〜く〜れ〜な〜く〜や〜侍〜

廿二番

左

為幸子御旨

梅の書れ〜お見らぬふまう侍〜う〜ぬますおやちてお〜ん

右

持房

かりんれお〜あ〜れ〜の〜も〜の〜海と先〜て〜あ〜乃〜さ〜く〜を  
左尋し〜も〜難れ〜う〜く〜や〜侍〜ん〜右尋し〜系推中納言  
此花もれ縁を思〜く〜よ〜め〜な〜ら〜し〜お〜ら〜い〜あ〜れ  
い〜ち〜あ〜れ〜御〜ら〜う〜し〜字のおおき〜ら〜う〜お〜ほ〜は〜の〜あ〜侍  
〜と〜た〜い〜ら〜く〜そ〜ら〜く〜侍〜ら〜ぬ〜ら〜り〜て〜贈〜く〜さ〜先〜  
〜と〜侍〜く〜御〜

廿三番

左

大傍都

梅姫の書れ〜お〜い〜ら〜ぬ〜ふ〜ま〜う〜侍〜う〜ぬ〜ま〜す〜お〜や〜ち〜て〜お〜ん

右

権大傍都實政

山姥初さくくそれ母のあししるる雲ちりぬま乃あきおれ  
たまたま母の難なる時

廿四番

廿三た

定衡

あゝ雲さくくくそれ母のあししるる雲ちりぬま乃あきおれ

右

正徹

花さくくくくそれ母のあししるる雲ちりぬま乃あきおれ  
たすけしるるかれい山梁の雌雄をよめるあや和文右集  
なとてあまよむまゝいふ明不暗勝く月るるはたは  
子屋の詠しるる家傳例な記あししるる雲ちりぬま乃あきおれ  
すれおきさくくくそれ母のあししるる雲ちりぬま乃あきおれ  
や右産のんおままれもかこれ月けあかふらん純母  
こいしくけり晴あけり

廿五番

廿四た

持純

あゝ雲さくくくくそれ母のあししるる雲ちりぬま乃あきおれ

右

中納言

河東の山乃しるる雲ちりぬま乃あきおれ  
たにむらこの花かあをかきしるる雲ちりぬま乃あきおれ  
きんもみちを花よねとあうしるる雲ちりぬま乃あきおれ  
むほあははきしるる雲ちりぬま乃あきおれ  
花よりねのいそあきんあうのりりわりなくあか  
えゆると右れあきあしるる雲ちりぬま乃あきおれ  
この人ゆいこのいぬるいやこれまよゆまよゆかれ  
とゆれいおあしるる雲ちりぬま乃あきおれ



廿六番

左

氏教

しらかきと夜をえぬとさうとと名なりと家名のたぐいし

右

常秀

梅のぬらうとさうと神事ぬまがせとおはふとゆりたさる雪

たすきとさうとゆりて歌のふらとと右と二

月れきとさうとたふみとさうと晴とせり但は母勲見

侍れい常孫好忠と二百六十首れ弄中春れ歌母花

越とらぬらんとさうとゆりては作ゆあうとたれちか

きみと家とさうとさうとさうとさうと花とつとさうと

いひとさうと落歌とありゆ家ましとさうと

廿七番

左

泰兼任

さういふとゆりてとゆりてとゆりてとゆりてとゆりてと

右

茂成朝臣

お新川がゆりてと二月乃書とや梅乃とゆりてと

た弄とさうと娘れ衣二月あまりぬんてありとゆりたれ

さうとたの書あ衣と免つととゆりたさうと

持とやとゆりて

廿八番

左

成前右孫

さういふと花とゆりてとゆりてとゆりてとゆりてと

右

盛長朝臣

あゆりてとゆりてとゆりてとゆりてとゆりてと

右山下とゆりてとゆりてとゆりてとゆりてと

さうとさうとありと持とゆりてとゆりてと

廿九番 後春

丸

権大納言

わうれゆきこれ海軍ていふはさういふ家れなるをがまにはし

右

小宰相

幸ひなむとふふひのりしきなりまをいふはれはれをまを

丸、詞華集丹宗徳院水方行しむとてとれ

をくたされやあやなくまれかみろふま又頭昭眼昭

法師、弄こふいこくはれはく乃ともの此や

輝然とていふもこれ園守志此二角のちれはかみ

侍まこと衣よりいふるもまをいふはれ

勝とていふもいふはれ

三十番

丸

右馬侍

さう後乃わむいふはれかきしりもからぬ老のなみろかひなり

右

女房

あきえよりせいのほらすあはれをまをいふはれ

丸、たうてかきしん老くあやとのちれはかき

まぬ老乃ちみをかひなりまといふ衣とひまれ

はらすあはれをまといふ家分れ親をかきとまれ

いやおいも如おきるかれとよめをさるまあひ

わきよれといふもわむいふはれ後なるいふ

ありしとあきえをされつらうまをさる

ちくはれをま持しりて先侍をいふはれ

ありきしん

卅一番

丸

権少侍那宗我

春とらぬをうけぬもちふはくうも清やいれむもあはれを  
六十一右 氏教

うぐいさいかたりてうとれやほふにたまえぬのあをさうかひかあり  
右林花春書宮堂教を偏賦上陽之怨不類内園  
と曲れたまうぐいさいかたりてうとれ山吹といつて  
詞れほくさうぐいさいも山吹あなつくふあれとて  
くゆりたまふくさうぐいさいもあなほくさうぐいさい  
をいほ一葉なまきうとれあやありきし晴れす  
とるやうとれさ

廿二番

九

成茶帝祢

あゝもも思ふもあやめうとていりぬとぬあはれわさ  
右 乃季躬臣

あはれ思ふもあやめうとていりぬとぬあはれわさ  
たは花の志もあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

廿三番

九

た道忠中納

ちりあきふさうぐいさいあはれあはれあはれあはれあはれ  
右 持和躬臣

ちりあきふさうぐいさいあはれあはれあはれあはれあはれ  
たは花の志もあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

廿四番

九

正徹

ゆきをみおのぼのともほくくそまゆゆりあしきり

右

法華竟孝

こむ河やふ代は若多みぬかすなうしむしききれさうりり  
た奇屋みれうつのをそさくくおととれほくあひあ  
そやまあつくゆふさくく屋みれうつれ務くいあな  
こむ河もよ先ふ事もゆきこおぬく華あや  
お奇子代はちちみとさくくふ道徳あや  
ゆりしと子代は親も事あやさくくかくれ  
おとくとはくけゆきあ代はあり道ちよれくれ  
ゆりしとさくくゆりうく若氏らくさるそ累葉あ  
及ゆきこね親あよせてもたうくふんゆりゆり  
とゆりしとゆりしとやちこあやさくく特とゆき

ゆきゆきゆり

世五番

九

定衛

おすきまてくれさくく若多みの志さくくのこさふねせれあな

右

時徳

おんうさくくゆきゆきあ事ほくくはくくはくくむき乃わくそ  
た奇世はゆきあれさあゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
まゆゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

世六番

九

持純

あうそあうそゆきゆきあ事ほくくはくくはくくはくくはくく  
右 入道二位  
屋ゆいそあゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

丸奇才二句いさうにうぬあす束作り在奇丁下句  
 其ととくりともあ〜と思つといふおな今れ  
 奇匠さる〜それま〜よるの作老師さる〜  
 志印れよる〜志〜丸れ勝とせり

廿七番

丸

持房

丸しゆか〜あき〜川〜世は〜たぬ〜ん  
 右  
 右 大信都  
 こら〜あ〜乃あ〜けそ局〜の〜あは〜  
 丸奇た〜りれま〜ぬまの竹〜移といひ〜りれ  
 ぢ〜せ〜うら〜あ〜あ〜と〜は〜まや〜  
 海〜つ〜し右奇さ〜花ち〜てれ後のお〜  
 三月れ〜あ〜り明のな〜い強〜姪艶あ〜し〜  
 れとのまれ五か〜りて飾〜とあま〜りお飾れ〜  
 そ蝶腰鶴膝れ病〜りの竹〜あや志〜れと  
 六番れ判者五条〜あ志れ病〜ま〜四儀〜  
 と〜ま〜は〜せ〜ゆ〜も竹〜れとれのち平五  
 百番れ奇合〜あ〜家徳物〜か〜れ教志れ〜  
 ととあ〜し〜りの〜れ〜りの明〜乃〜あ〜  
 竹〜は〜定家御判〜竹〜ま〜基後と鶴膝  
 蝶腰が〜ま〜して竹〜り右奇の〜字〜竹〜  
 て竹〜あ〜りお竹〜〜ん〜あ〜あや志〜  
 ら〜あ〜字〜字れ〜あ〜合あ〜しては  
 竹〜あ〜や

一廿八番

丸

茂成朝臣

竹〜あ〜や  
 竹〜あ〜や

きよはらのまはらなむとあはれぬはらのまをくれゆく

一廿八右

泰意任

ちりしを待たぬものうぬすの系屋よひう人きれぬを  
たにちきしとあはれぬまはらうみ右人あはれぬ  
屋よひ城かこりたみは難ゆ一因科とや中  
ゆしし後日よ却人侍色い右奇定家奇さ  
れあはれぬやたあはらうまはらうとあはれぬ  
まはらうかねと侍系は教なるまはら

廿九番

左

権大侍都実政

乃はれしとを免れぬみちとあはれぬとあはれぬ  
あはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬ

右

迎清

た奇順法院は御製河はせしとあはれぬとあはれぬ  
あはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬ  
右来山吹あはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬ  
しあやけ侍あはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬ  
遠東は井一のこのとあはれぬとあはれぬとあはれぬ  
橋あはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬ  
園とりらわさうとあはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬ

四下番

左

常秀

あはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬ

右

入定

のこりしを待たぬものうぬすの系屋よひう人きれぬを  
わはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬ

よい物あり申すや池乃れは庭も似れつゝ  
とおやえ物申して福を申すうを勝物といふ  
四丁一番

左

盛長組

花をともいひやししやと見えしははるる  
中納言

右

中納言

だしやあもやと見えしははるる  
た右れ寄らるる申す物もや勝方れ神も  
いふり

二番

左

從三位仲音

さうさるるやといふははるる  
右 経清

いふははるるやといふははるる  
た右れといふははるる  
但たは梅は黄し物もは庭のまはるる  
いふ一日もといふははるる  
まはるる物も梅はうちのまはるる  
申すやうな物も梅はうちのまはるる  
まはるる物も梅はうちのまはるる

三番初

左

右 経清

多らうといふははるる  
右 経清

まはるる物も梅はうちのまはるる  
あはるる物も梅はうちのまはるる

不徒かまらしく作り右にせよかきぬ河に社  
なりといふ又いふけありてさよしく作りや柳河  
社ハ昔くく、弄よるを、昔ハかき進す上昔昔の昔合  
めを世中一弄化はしあやしくいひたりゆめ若  
湯よかぬいふく一あさうりまに志れゆけやと  
ハ昔くく志き紀んをて七日ひきしの大さうり  
もかまらしく作りゆゆ花乃はりいふくもなふ  
ゆれゆ川社とあましくいふくもなふくも  
かく作りしをそれゆゆわふ一水又きまて  
れまはゆゆくくくくくくくくくくくくくくく  
あつひい月ゆめあましくあつひい流ゆましくく系作例  
うさかひな記うハ河社ゆくくくくくくくくくく  
志のゆけけゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

甲子書

左

題書

此れくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
ゆきかきみ志れゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
さくくくあゆれかゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

右

うくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
た奇ゆ河流百首ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
弄くを續た今流系抱抄政方ゆきあうりい子代紙



かきつんちり免とてま川ひとくたおなるを  
うねと作りた名うの舟は類ありのわが舟

早七番

右

常秀

をくまご志きふます清よなりあがりいつ世にふかのあつ

右

盛長朝臣

おころしはきふさしあがけまそあひ紫々かき夏あまう那  
右れ新古今あまきれあいのつらいつぬさといあ  
しこ世あはうこ家花れをゆらん物ああ時  
半開れをぬうさむいといああやそ水よな  
川本まみなりぬるあひまささうあまやあ  
あまをさきあはうさうと物あおあはうさ  
作りた理こしあ物ああはきそ勝ああや

早七番

右

時勢

あまいふさきさけくまもさうあやといひなわあ  
右

あまうてい如きもあま清もあみささあさうまあまらるるあ  
た奇くあさうあやあまくるるを倭あさう  
作りあやしといけハ知うさなあ  
ぬあや右歌と教勅平頭れ二病お作り  
しちうああハあさあそれあまいさま  
作りぬあやああさういさあまう作り

早七番

右

持房

あまあちといふああさうあまらるるあまらるるあまらるるあ

右

中納言

卯もはるまゝおぼえぬあはれやん今うさなうさな  
た乃奇志おぼえぬあはれやん今うさなうさな  
右の堀河はれはる首あむむれもさきかきぬれ  
ともしやんよりうさなうさな  
源六とさおのうさなうさな

早書

た

定衛

右

正徹

一勢りしあはれやん今うさなうさな  
た乃花はれはる首あむむれもさきかきぬれ  
右の若山は童子も偈乃るよりあはれやん今うさな

正徹石故事

この一あはれやん今うさなうさな  
勝つらん一但千我集あはれやん今うさな  
くたりのいさあき△あはれやん今うさな  
は乃すあはれやん今うさなうさな  
くおるえはれやん今うさなうさな  
詩家はれはる首あむむれもさきかきぬれ

早書

た

持左衛門

右

大信都

柳葉や卯月はれはる首あむむれもさきかきぬれ  
た乃花はれはる首あむむれもさきかきぬれ  
あはれやん今うさなうさな  
あはれやん今うさなうさな

却巨奇 柳葉 廿卯月 此乃くはひきくきく尺  
切りぬの 祢 まるくこと 傳りぬや

五十番

丸

女房

去はたて 夏葉の 川 柳 たるが 柳 ありぬき 志きる 心 此 けり 耶

右

持和朝臣

志 柳 たる 卯月 此 乃く 記 する 心 此 志 柳 葉 此 志 傳

右 奇 中 柳 葉 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

傳り たる 万 葉 古 風 を 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

多 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

い けり 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

五十番

丸

從三位 仲方卿

交 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

右

柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

五十二番

丸

成前 右 卿

柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉 此 志 柳 葉

右

氏教

さくらしゆか先あまうし雲れなももとそとそら如くふせうあく  
郭とよまゆかこころのいさ清よりとさくらあれ  
雲のあらしといくらまらりあやありきん勝とさ  
りしをゆり

五十三番

丸

入道二位

夏よりもさあまのこま家花れ書う日如くまうつりあか

右

源清

あらしなれ家のかむね乃弁花う月れ出舟乃製<sup>け</sup>やうの弁  
丸弄結縁しゆぬあや右弄志うなりれ  
より乃かきぬとと記月の出あ祢れかきやま  
らんとい屋の御あうし記う海舟ゆきと

勝とゆさあうしゆを他清日あうんゆきと右弄を

遍身痛ゆりまうとれ子細と記あきうしゆれと

を以はけ病うもまうし又四候るりあや

五十四番

丸

小宰相

花を先のちゆりもまうしまかゆてまうし記神うまのうあうり

右

持純

山かきうしまかゆし種や志免とう人舟を卯むのうまうせう  
右弄しあびうのそれ乃ううまうせとゆあんあま  
さうしゆを勝うしあや

五十五番

丸

権大傍祐実政

夏よりいれ乃かき種うしあまうしあまうしあまうしあまうし

右

權少僧師宗我

一乃川をききしよりむとて病もさうりのをれとて志きみつみは  
たれ弄りあはれかゝるれ印音とさうり用ふ少や  
は風情つぬれえん及作り右弄りつあといつあ  
初これましわつ派又浮れ字みきて作り  
一菱安居の苦行ぬおむくんさあさう派  
是れゆきい勝字をさうけられ作り

五十六番

右

養成胡臣

花れ多てきえり多結をたのし海といはれいさうさうとが  
えりたあをぬえぬれたれさうさきりもたれいし結き  
たれおれりやとち家らなりとく勝力を論

右

秦葱任

まゆめさうり作り

五十七番中菱

右

大儒都

た望となあありぬりゆきまはいひもんきぬさみくきれ

右

持房

持純五教啓

さみされが先さうてあまらう路さうはゆりあふはれ  
た弄りあありぬりやとち家らなりとく勝力を論  
さみされのさうりひりさうさきりもたれいし結き  
う勢さういほさうか又折下れ縁風はせり  
さうさ為家々弄りとて屋れ神とりあつ派  
あさう風さうい所らぬきぬとあふと作りと系  
さめれみりぬりなをさうりさうりあうりあうり  
よせしおれりまゆめさうりやゆきさうりたれ結とせり

丸

正徹

斬乃草あやめを落れぬかひあつとてまたはぬぬあきをぬる勢

右

拈純

さるぬ雨とこ月れぬあつて斬れぬあきをぬる勢

左身まづ切斬れあつとてこれとてはつぬあき

あつて作り連分りぬあかやりのあみまも作りあや

袖すにたきぬもあつとていふとては秀ゆあやと

足付きとあつぬあつてや袖すにたきぬあつと

なりぬあつとあつといふは艶りあつとてあつて作りあ

さるぬ雨とこ月れぬあつて斬れぬあきをぬる勢

あつて作り連分りぬあかやりのあみまも作りあや

袖すにたきぬもあつとていふとては秀ゆあやと

足付きとあつぬあつてや袖すにたきぬあつと

なりぬあつとあつといふは艶りあつとてあつて作りあ

さるぬ雨とこ月れぬあつて斬れぬあきをぬる勢

あつて作り連分りぬあかやりのあみまも作りあや

袖すにたきぬもあつとていふとては秀ゆあやと

足付きとあつぬあつてや袖すにたきぬあつと

なりぬあつとあつといふは艶りあつとてあつて作りあ

さるぬ雨とこ月れぬあつて斬れぬあきをぬる勢

あつて作り連分りぬあかやりのあみまも作りあや

袖すにたきぬもあつとていふとては秀ゆあやと

足付きとあつぬあつてや袖すにたきぬあつと

なりぬあつとあつといふは艶りあつとてあつて作りあ

さるぬ雨とこ月れぬあつて斬れぬあきをぬる勢

丸

持和朝臣

あや先草と風ら花もかりとや斬るすおほふあつとたりき

右

源氏

志川のれ、甲苗よりいふとてあつとてあつとてあつと

た弄と大中臣能宣とあや先草をつまとたりき

山れ上りいふとて風掃をつまとたりき

いほまをいともいふつまてえのふをいああり  
のちろろほとさも申しけりくおほえ侍ふ右舟  
いさうらう田子れいとも志あふをや舟くふ侍れ  
いさみかこれのいともまれまへしあふといさとも侍り  
ぬめやた舟いさうらうさきあめや晴とせり

六十二番

右房

二月とていさやちこれまひあつちうたのふあはいさうらう

右

入道二位

きよとあもいあ代とつし記いあもやぬまのあや先きあひあ  
た舟あやのあきれうらめ侍さふり侍信の  
ほそいぬあめよりんくともこれ旋頭舟はういひきいて  
侍まは勝劣がいの事いあひいしけ侍ぬを

六十一番

右

權少信都宗我

あふぬがひあもやいほあみういさうこれみまうぬあかんらあ  
右 法下亮孝

いさうらういさうわむいさもよれ三月と屋みれ一妻又

六十二番

右

成前宿禰

あふらういさういさもあうらういさのいさひかぬああぬあうやあ

右

右侍

あふらうあふらういさういさういさ乃あふらういさういさ乃あふらう





た雲波かきぬ家あはれかくる衣あられを何れ  
の二月ぬれ時よりぬいひ志をてこころし作り又  
力持

六十三番

た

権大佛殿実政

青とまの由とをちみさけし梅乃なまりりあをなれはれ

右

た迦清中物

母とまの由とをちみさけし梅乃なまりりあをなれはれ

た奇由とをちみさけし梅乃なまりりあをなれはれ

ゆあなれ梅と作りは右に梅の事あやとおひ

作りと梅乃名物あはれ梅の事あやとおひ

作り後世念院開白れ梅九をれ由と梅乃

作りつと梅乃作りは作りきんとより子孫つと

古今集下  
後時夜の前梅の五  
あはれ梅の事あはれ梅の事  
作者の意  
後思意後冬平  
後社念院冬平  
後世念院冬平

たひいわり作り右奇子雲の屋よりせしはれはれ

作りはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

作りはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

作りはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

六十番

た

迦清

わすれぬかきぬ野はあはれ草ひはれはれはれはれはれ

右

定衛

さみしあはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

た奇屋とを福やと作りはれはれはれはれはれはれ

雨多や右れ作りはれはれはれはれはれはれはれはれ

あはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

とつはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ



月夜みまのこをきつてなり教はまこととてしるし乃山ほくこは  
右弄まのこもきつていなくし志相り郭を  
侍らばよきしつゆもやまこととてしるしとて教は  
ましかりんといをきしとてきつれとあをこれ  
あしぬふりおれ麻紙しとてしるしとてしるし  
はをまのこしとてしるしおははつたを侍せは  
うめつとてたを贈とせし

六十九番

左

從三位仲方卿

二悔乃山抄あそもてきこふとてのちりし雲の足は志なり  
右

盛長朝臣

さ月さりの抄よりよふ唐もあはるをうぬ世あそもてしるし  
た雲は足は河とて海よりあつていされよせなりや

侍らん亭子流れ弄合母あつて後ろみとよめ  
あはれとあそ中侍りあや又千五百番弄合なり  
定家卿雲は浪流乃がみあましつとよし  
そあそわををぬれとよみ侍るを借ぬは雲は  
ちみかをみれろみといつあそもあつん乃よせたりや  
侍りしと判せしとよしあや右はとよし乃麻  
色かきしあ母かりておひ侍りあはるをう  
ぬあそいといはな紙さる乃あや侍らんよそ又  
侍りせり

六十九番

左

氏教

あそまのこしとてあそまをなせやそれつらあ乃おそあ  
右

権左納言







名取月乃て家日おせのなりし也く如くぬを身たよふにたりきり  
た舞よもれあよかよと輝うせなやと借りよと輝し  
くはやく侍を衣舞よとせいにけつころ記いともめ約り  
たりあせれうとい屋おとくい古人を御せさる丹  
あよとれともかとも先よ家非我ありあやし  
く思給侍う成いっぢあ事一りありきん勝  
まよしとり中人くも侍りしを先孝は平  
まよとて中侍しおれいいの吾合い上世志ま  
つり事成志さる中具れ業をあらひ神のつせ  
侍れいとい中いとい記何成あよとせさるれ家  
道成まよとるの事をわたりてんかきぬ解字  
とも先因成おとらうは平<sup>年</sup>成をえりりりせ  
侍りいといせし初字いよくおれんちあま

よい後業はしりぬかれ成をこよ家幸なりむそ  
れいとい高書舞合中後系拉扱成れ縁あり  
くぬれしと成雲井ぬむいよとせまよる人  
くんいといまよるいよとみ強つ海成判者五  
系三品いあしとぬれるとをりれり一番れ  
はしといお介ゆり成下白れんきあよるい  
い屋家や成りりぬしと細ぬ侍しんよと部乃  
さる先れたの舞うとて侍色いかこく勝れり  
を中いと先せとくかれと品い大の足ちれ成を成  
おせしあやりのておとられ中あもる成おと  
る成いさつり神成物せしきしぬやと家日れ  
あせれと成例ありし事い中ぬよと成侍  
れともこの舞勝侍りいんちれよと成をけり

や侍とんとあるはかた直言誠なりと  
りり紙せんとてお初え侍れいませけむつとて社  
侍系へ記よしと侍とてとち紙州申乃義  
をもちてなごめとまうとあや持とつととれあ  
あそかこりつとてお初く侍れ

七十番

左

氏教

目とりのあす志誠とみ河をけしとまうと婦乃あちとてまうり

右

婦ちくそとちとち免うとて婦れあとのまらくととを所とて記系  
左新の風吹新衣右了うい流涙水花一得一矢  
無勝之者

七十九番

左

た近清中納

まみうやねとまうと記タ路や妻と婦とれいあひ乃と  
八十番

右

中納言

夏とけああとのあれあれとむととあまうと好うとてあ  
岩間あれあはとまうと十八位とてとま乃夕風とり  
難乃あれ仍いん力勝

八十番

左

従三位仲方

し乃川とねむとのあまう記まやとあ初のあ乃ゆとら志雨  
右

持大僧都 宣政

足家まゝあ野と海と記れとまうとみ華あまなみ記とつとを  
たいあ少初れと乃う記雲右の野と後とて記れと  
八十番

左

可謂日科



八十一番

丸

権左衛門 宗我

まよひは月を影をわがさきさきとてわきしくさきぬれば  
右 為季朝臣

うがみはなまをひらきそに河せきとあきぬ月ありたり

丸 奇しく井のありに親も侍をきとてなりを

八十番

俗もちうくさふえ侍り右 奇 後 京 掾 振 政 奇

るやさぬのかつぬ浪水みんを記してし年

かみのなりとてあふく侍りおれし年水みや

八十二番

丸

茂成朝臣

すきとに雲のる人代とちうさきひむつとぬえつ記がし

右

秦兼臣

ゆきとに月をさきとてあふく侍りなりと輝くと見れ月乃き

丸 一代なりとて水宮城の侍り首所水たの奇

かみさきとてあふく侍り右の侍りとて門田水は編み

羅れさきとてあふく侍りくや侍り又水は侍

右の侍りとてあふく侍り

右

ゆきとに月をさきとてあふく侍りなりと輝くと見れ月乃き  
丸 一代なりとて水宮城の侍り首所たの奇  
かみさきとてあふく侍り右の侍りとて門田は編み  
羅れさきとてあふく侍りくや侍り又は侍

丸

権中侍都宗我

まことばあつとねをわがふとくさくさくわさしくまふこれ  
右 為季朝臣

うさみねがとあつとねをわがふとくさくさくわさしくまふこれ

丸 奇しく井ハ市リに初ル侍色とくさくさを

俗めちくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

くさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

なみのなごさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

仍るさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

丸

為成朝臣

すさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

右

秦兼臣

ゆさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

丸 出代なごさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

右 おのさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

羅れさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

八十五番

丸

定衛

丸にむすひうみんさくふけもなりんれ河母う宿家り

権大納言

西乃海や妻とくけゆかみれうてく姉成まろく乃おまのあれ人

丸くれむすひうりとい夕陽遍照の幸也や又

管れひうりあやお母はうなく作り右おきのあ人

の姉成ゆへまゆいもなりあ中とあゆ作りぬあ

やがとくくく又持あや

八十五番 初秋

丸

入道二位

単とあまきさくさくはるゆれをとりうりて姉をくくあ

右

た迎清中納言

あわあまのみちれうくくあまのあみされゆあなひを先

たに遊中丸右弁もみちれゆ右今あは

ゆみちとゆあわくせりやとくくあまをくあそ

作り代あ紫乃ゆとくあるくあやうあつと

用あ中丸とくあまきくあぬあまう右人

並ゆあうくうらまうせて機集るとあもく

ぬまやと中人作りゆあなくあ懐せらあま

うれまき川右れ勝よりあれゆき後日あ

足ゆあは新右今集あ方朝臣

五河あゆあまきくああ紫れゆありやち

又とゆあ

早合れあゆああま川あ紫れゆあゆの秋風

新勅撰集法平款口弁

天川海のぬる死に帰風もあふれ揚の中や流るらん  
續古今集玉を度之階是弄

天河を系此揚や帰とてそれと流ぬ流るらん  
賦とてちとそ系あといふ傳とて後字れと先  
いふとあといふけつりこ

八十六番

九

迎浦

おく舟おの志津くやあ月乃河名川をま乃流中をくらん

右

大傍都

あふりしと流もと記あに去れぬああいけ乃せ舟揚を  
九弄と拾遺弄好きていく日もあふ杯と六の杯  
ゆらあさきれ河のあもくさといふと傳るあ相  
おのりしとあやよと九れ揚と

八十七番

九

流流

天乃河先のうあふ流ける子とくくくまはあぬさされわさる

右

茂成朝臣

いふがふ乃と稱れま川せもあまもやまこい吹かりあらん  
九弄二字をれんやあもいふくをくくうり傳るあ流と  
くくやさくはあといふあおあはくくくや傳らん  
あこまのやあ山れいふあ後系揚揚段の弄とあ  
いふとあやいあわ

八十八番

九

小宰相

病のまもむきひあふぬをの好くもああきあふ秋乃くく

右

成前宿禰

月流百も  
くくくくくくく  
くくくくくくく  
くくくくくくく  
くくくくくくく

天川海にぬるれば帰風もあふれば橋の中や絶なり  
續古今集天皇在座之降是年

天河系系此橋や帰とてそらと絶ぬ御るるらん  
賦とてちとそらあまそらと傳とて後学れと絶り  
いさゝ志あつてけつりこ

八十六番

左

近浦

おく舞はれは志はくやあま乃河名川をま乃あまゆをくらん

右

大傍都

あまゆをくらんあまゆをくらんあまゆをくらん  
た舞と拾遺舞好きていく日とあふ孫と木の孫  
ゆふあまをこれゆふあまをこれゆふあまをこれ  
おのりこまやよとたれ橋とこ

八十七番

左

近浦

天乃河先よりあま殿はるみさうし  
右  
茂成朝臣

いさゝ志あつてけつりこ  
た舞と拾遺舞好きていく日とあふ孫と木の孫  
ゆふあまをこれゆふあまをこれゆふあまをこれ  
おのりこまやよとたれ橋とこ

八十八番

左

小宰相

おのりこまやよとたれ橋とこ  
右  
成前宿禰

と記あるを尋ねば... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...

八十九番

左

持純

乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...

右

権左衛門 宗我

乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...

右  
乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...

乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...

乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...

乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...

乃婦乃

九十番

左

乃婦乃

乃婦乃

乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...

右

乃婦乃

乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...

乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...

乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...

乃婦乃

九十一番

左

乃婦乃

乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...  
乃婦乃... 乃婦乃...

と記あるを尋ねては、  
左のよりの金風玉露とよきなり、  
右の竹のぬめや

八十九番

九

持純

よきなりと尋ねらるるに、  
右

権左衛門都宗我

と記あるを尋ねては、  
初婦乃況、  
左のよりの金風玉露とよきなり、  
右の竹のぬめや

九十番  
竹のぬめや

九十番

九

為季朝臣

之四十六

と記あるを尋ねては、  
右

権左衛門都宗我

と記あるを尋ねては、  
左のよりの金風玉露とよきなり、  
右の竹のぬめや

九十一番

九

女房

と記あるを尋ねては、  
乃布のたつとよきなり、  
右の竹のぬめや





すはきそておれいなるあしきなるにさしあふし  
とあつせり今れ新しと様さぬと侍ういふ事なり  
半しきものよりいふ及びはや侍しとて志す  
く勝方と決まありありのいふに侍しとて志す  
乃刺吹毛れ難なるいふと侍しとて志す  
いふと侍しとて志す

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

九十四番

左

時繁

すめいめいといふとていふ人ゆゑに侍なり  
従三位仲方卿

右

従三位仲方卿

すめいめいといふとていふ人ゆゑに侍なり  
けた右初み字名れ侍はり侍り侍り侍り侍り  
めいめいといふとていふ人ゆゑに侍なり  
まことまことといふとていふ人ゆゑに侍なり  
侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

九十五番

左

持房

すめいめいといふとていふ人ゆゑに侍なり  
侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

右

定衛

ゆく風れとらりりい編やし原い雲より日けのよきかひい

九十六番

九十九

持和朝臣

さねあまふ秋やちのぬきぬきも君いど記わひぬ漢書をた

右

秦葱任

妹とともわらまきぬ志れ先うとや実かま河をさうれ

た奇才二白た奇の初と志す侍くはいうあそや

さあしく侍衣言の源氏の奇候ありさういさう勝

さうあそく押源氏おううりた奇あかあそあそ持

和朝臣の源氏いことととといさあ奇をいさういさう

あや大よそ二代集れ初ううらまうせてあああ

あそあそいさあそいさあそいさあそいさあそいさあそい

奇より初をと源いあそい先まうし中侍れとあそ

しまうくさういさあそいさあそいさあそいさあそい

像如彌女がととあそいさあそいさあそいさあそい

此印とあそいさあそいさあそいさあそいさあそい

の百首作者まそと人此にああそいさあそいさあそい

とあそいさあそいさあそいさあそいさあそいさあそい

修元 部え侍色は三代集あそいさあそいさあそいさあそい

と中人いさあそいさあそいさあそいさあそいさあそい

はと定家や此判初あそいさあそいさあそいさあそい

あそいさあそいさあそいさあそいさあそいさあそい

奇の心をいさあそいさあそいさあそいさあそいさあそい

れとあ代いさあそいさあそいさあそいさあそいさあそい

九十七番

九十九

盛長朝臣

あゝ蘇もど花あぬまれのうす可ちりなきぬ様のゆやふりたし

右

法中亮孝

吹くたる蘇もど花あぬまれのうす可ちりなきぬ様のゆやふりたし

九十九番 九十九番

等れ判りてこふまのうす可ちりなきぬ様のゆやふりたし

いよもど花あぬまれのうす可ちりなきぬ様のゆやふりたし

脂(表)あや

九十八番

九十八番

入室

あゝ蘇もど花あぬまれのうす可ちりなきぬ様のゆやふりたし

右

申納云

いよもど花あぬまれのうす可ちりなきぬ様のゆやふりたし

分 才二白萩の上葉終り結れ初風左右一同待方疑

九十九番 申秋

九十九番

持和朝臣

風むみわさ田ううぬさくさ萩もど花あぬまれのうす可ちりなきぬ様のゆやふりたし

右

常秀

さみりたる婦あぬまれのうす可ちりなきぬ様のゆやふりたし

右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右

家新合小萩中一葉終り結れ初風左右一同待方疑

吹くたる蘇もど花あぬまれのうす可ちりなきぬ様のゆやふりたし

中れぬいかくもど花あぬまれのうす可ちりなきぬ様のゆやふりたし

題ありさい又廣治中尋合大納言公相卿早云

宗後母あゝ蘇もど花あぬまれのうす可ちりなきぬ様のゆやふりたし

らうを記す此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
父うを記す此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
え竹をあら記す此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
りて此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
つりて此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
とついで此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
結れ神事とついで此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
これ月まらしついで此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
りて此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる

百番

左

女房

常盤の海をかりしひりきよふら月を輝と名づけ

左

中細衣

病ありてあまの月と名づけしひりきよふら月を輝と名づけ  
ついで此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
りて此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
ついで此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
りて此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる

百一番

左

法平亮孝

あけおのりなりあまの月と名づけしひりきよふら月を輝と名づけ

右

持房

き海にあまの神あり月と名づけしひりきよふら月を輝と名づけ  
た名あまの月と名づけしひりきよふら月を輝と名づけ  
そついで此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
月のまらしついで此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
竹の家をあら記す此後母とよみ竹家と為家ハ刺さる  
あけおのりなりあまの月と名づけしひりきよふら月を輝と名づけ

おははらうや侍もむとて持くはとあつ  
き侍り

百二番

丸

丸道清中物

あはれかきし月とこふいとやそこのはもりひりあらん

右

持純

こよひのあつれそそあまれかふも申乃妹の月乃ひは

丸奇澤吹う海流ちそ志とくく思ひ侍れ侍るこ

れははもや侍あい潭融可兼藻中突るこ

侍うはあとかうひ侍りあや衣分あま乃切を

申れ秋よりくくことさうく侍あまれう那う

は侍あ侍りくく

百二番

丸

大僧都

ひ美わきれ使もあつてよりさう雲井は庭乃ら月乃約

右

小宰相

あはれおのあつてよりあつれかけさやなまら月初

た右のら月れ約ひはくああそひ侍り

くくこと侍れを強足と志り侍るねい志りく

持あつてくく侍り

百二番

丸

茂成朝臣

君りなを約れは侍りあつてははくあ代の妹とく

右

源清

かきあはれあつれはのくくくさみを妹の申乃月を志り

右うなみとくくくくくくくくくくくくくくくくく

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ  
〜や大畧持とけさあ〜きゆり

百又書

右徳信

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

百六書

入宣

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

百六書

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

百六書

権大僧正宣政

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

百六書

持少僧都宗我

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

百七書

百七書

定衡

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

百七書

盛長親長

あつた月をいしくおめーういあつ〜か〜ぬ

た壽ハ唐人詩女園々離海臨漸々出雲欄今  
夜一輪満清光何処無と一系ハ成ちり系ハ  
尺く竹まを詩文の類ともし力ある事ハ此  
ま〜〜ぬ〜〜字記中トといふぬ右左等ハ  
清系之痛ハ鹿乃福なり〜〜し〜〜と  
いふと〜〜系ハやとおひし竹籠と竹をいし  
〜〜いおひせひや竹〜〜ハ仍有持

百八番

た

氏教

燦乃月もら〜〜は〜〜の氣ハ〜〜と〜〜をわ〜〜は〜〜

右

従三位仲方ハ

か〜〜系ハ〜〜ひ〜〜と〜〜月ハ〜〜成〜〜も〜〜中〜〜と〜〜  
た〜〜い〜〜と〜〜れ〜〜者〜〜ハ〜〜竹〜〜ぬ〜〜や

百九番

た

權大納言

名也ハ〜〜蝶ハ〜〜中〜〜と〜〜系ハ〜〜と〜〜い〜〜乃〜〜ひ〜〜り〜〜なり〜〜也

右

入道二位

〜〜か〜〜と〜〜り〜〜ぬ〜〜ぬ〜〜の〜〜今〜〜ハ〜〜清〜〜ら〜〜う〜〜燦乃〜〜右〜〜に〜〜也  
又為持

百十番

た

時整

久〜〜が〜〜が〜〜この〜〜蝶ハ〜〜出〜〜し〜〜今〜〜こ〜〜う〜〜い〜〜志〜〜れ〜〜や〜〜あ〜〜ろ〜〜と〜〜う〜〜り〜〜ん

右

為季朝臣

ま〜〜し〜〜は〜〜系ハ〜〜秋の〜〜や〜〜と〜〜も〜〜あ〜〜の〜〜記〜〜見〜〜係〜〜月〜〜や〜〜と〜〜り〜〜を〜〜ひ〜〜り〜〜なり〜〜也  
た〜〜奇〜〜志〜〜也〜〜と〜〜や〜〜と〜〜い〜〜ハ〜〜初〜〜六〜〜言〜〜番〜〜乃〜〜判〜〜し〜〜り〜〜あ〜〜鹿〜〜養〜〜振  
み〜〜ん〜〜え〜〜竹〜〜れ〜〜と〜〜ひ〜〜さ〜〜と〜〜れ〜〜なり〜〜と〜〜れ〜〜秋の〜〜と〜〜人〜〜も〜〜

いさよとてふしえのりこもあつてふりこ

百十一番

た

正徹

あふのりこはくこあはれし姉乃ちをこもあふ

成前宿禰

あまのりこ雲をこよひぬ月をこころひぢうこの秋を

姉れがこもあかき月かきふりここよひはれ姉れ

吹とゆりい月れいりききみききき海しとれ

くくトゆりこ右れ胸あはれあつて他ゆりあ

あつてきききききききききききききききき

得あめいさくくゆりこは遣はしりい海より

ゆりこ月影あきい花とあつてきききききき

105番 庵よりゆりこよみゆりこは懐丹法所ハ初み

いさよとてふしえのりこもあつてふりこ

いさよとてふしえのりこもあつてふりこ

いさよとてふしえのりこもあつてふりこ

いさよとてふしえのりこもあつてふりこ

いさよとてふしえのりこもあつてふりこ

いさよとてふしえのりこもあつてふりこ

いさよとてふしえのりこもあつてふりこ

百十二番

た

近衛

あまのりこ姉れり中乃こころ秋あき月影のいりこ

右

春巻伝

庵よりあまのりこ月影いりこあまのりこ

右れあまのりこあまのりこあまのりこ



たけ勝めしと

百十三番 後秋

た

経法

あふれくれば輝れおのけもまをわたりぬふあまのまは月

右

た進衛中將

あふまは川の流きとまじりて乃神のまきとあまのまは月

たとおのけのけかまをくぬこしく侍る在りけ

あふれと流れゆめやまましくて持せり

百十四番

た

進法

山姫乃いふと神のけあま名すもくろくたのみらなぬん

右

右進法

えあまのまは月とあまのれあふ月や月をたまのまの輝せり

たあまのまは月とあまのれあふ月や月をたまのまの輝せり

百十五番

た

女房

七月のまのまは月とあまのれあふ月や月をたまのまの輝せり

右

氏教

ゆふれは輝れあまのれあふ月や月をたまのまの輝せり

右あまのまは月とあまのれあふ月や月をたまのまの輝せり

あふれくれば輝れあまのれあふ月や月をたまのまの輝せり

此月のまのまは月とあまのれあふ月や月をたまのまの輝せり

あふれくれば輝れあまのれあふ月や月をたまのまの輝せり

あふれくれば輝れあまのれあふ月や月をたまのまの輝せり

あふれくれば輝れあまのれあふ月や月をたまのまの輝せり

あふれくれば輝れあまのれあふ月や月をたまのまの輝せり

見ゆれいさるまき新い合定家々新い母在明のる  
ふり輝れ月かきりよりりさささ家虫れ却か  
れとゆりたり幸れほのあまあもゆり  
きれ

百十六番

た

持和胡臣

夢あきふは髪けのちもあつし髪をかけ乃く色紅れはる月れ

右

権大納言

りみらほふあふあふ糸の輝く名くわうしきよもさちね里乃ゆ  
かきれしおのるう月さくはぬさへん及換ぬゆ  
と右れぬ糸れ指さりぬあひりてそれささ  
わのきゆぬよりいひ髪乃をさかとうさう取や  
あしんとて晴とほくゆきん

